

はじめに

「未来を生き抜く力を」

深刻なデフレである。しかも、出口の見えないデフレであるから、各産業とも今を乗り切るだけではだめで、将来を見据えて継続して業績をあげていくことを考えなければ生き残っていけない状況にある。企業では今までどおりの物作りの手法を踏襲しては、人件費の安いアジアの諸国に押され倒産の憂き目に合ってしまうらしい。テレビの特集番組を見ていると、そんな中で業績を上げている企業が紹介されている。メイド・イン・ジャパンで健闘している会社は、実に様々な研究と努力・工夫を行い、新しいことにチャレンジしていることが分かる。

これを教育の視点からみるとどうだろう。教科書どおり、ルールに乗って指示されたことだけをきちんとこなせる子。先生から出された問題に答え、及第点をもらい、まじめで、良くできる子は、過去にはそれで充分であった。ところが、今はそれだけでは心許ない。混迷極める現在社会において、経験したことのない問題に直面したとき、指示されたことに答えることしか学んでこなかった子は、はたして自力解決できるであろうか、自分で何をしたいやら分からないということになるのではないか。

「かわいい子には旅させよ」—子育ての妙を得たことわざである。子供のためを思うなら、甘やかすばかりでなく、試練を与えて物事を正しく見聞きできる力を育ててやらなければならないという意味である。学習活動においても、教師がいつも手取り足取り親切に教えることはその子のためにならないともいえる。時には突き放した指導も必要なのである。

塩津小学校では、算数科を中心として「問題解決学習」に取り組んでいる。子どもが今までに学習したことをもとに自らの力で工夫して問題の解決あたり、自分なりの考えを持つ。それをクラスのみんなで話し合いひとつの解に到達する。そして、新しい疑問を見つけたり、生活に生かしたりする活動である。これらの学習活動を通して「未来を生き抜く力」が身につくと考えてのことである。

加えて、今年度は、外国語活動について教員全員で研修を行い、検証授業も全員で取り組むなどしてきた。これも、子ども達の将来を見据えて、コミュニケーション力の素地を養う上で必要不可欠なことである。

また、塩津小学校の特色ある教育として従前から連綿と受けつがれてきた、海水泳、地域産業やいなおどりに代表される伝統文化の学習にも積極的に取り組み、地域に根ざした教育を大切に守り育ててきたことは、故郷を愛する心情を育てる上で大きな意味を持つ。

完全複式で極少人数の本校において、こういった学習活動はたいへんな困難を伴うようになってきたが、この冊子を作るにあたって、われわれ教師が子どもにいったいどんな力を付ければよいのか、今年一年間かけてどんな力をつけることができたのかを今一度確かめたい。

平成22年3月

学校長 上岡 旭